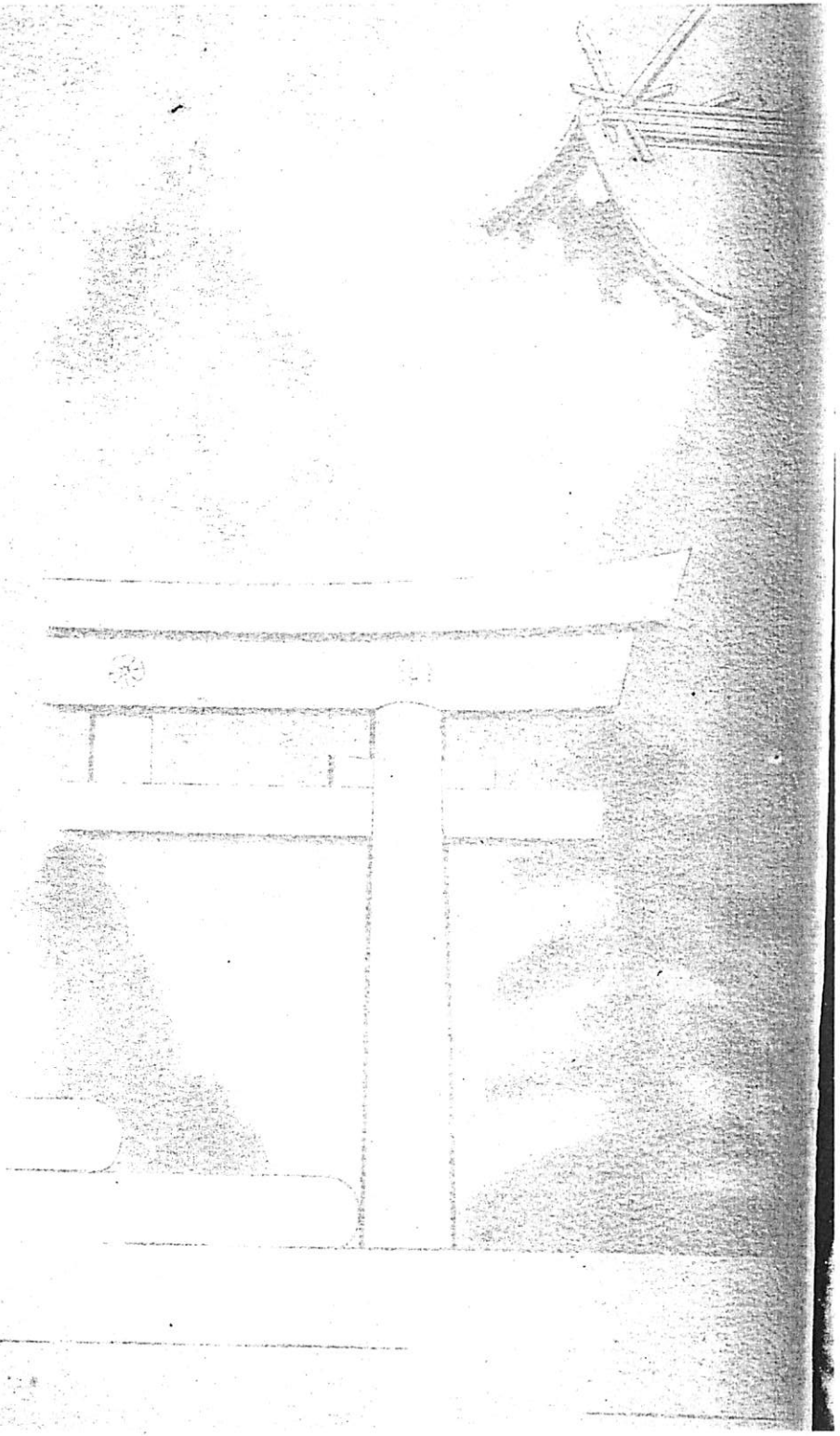
第三回明治神宮體育大會報告書



第三回明治神宮體育大會優勝者

陸上競技

青年團對抗

女子一般競技

男子一般競技

第二部

[illegible]

水上競技

第一部

[illegible]

野球

六大學新選手對抗

選拔中等學校對抗

庭球

硬球

軟球

籠球

射撃

團體射撃

在鄕軍人對抗

學生個人對射

一般個人對射

在鄕軍人個人對射

端艇

固定席艇

スカール

海軍カッター

フォーア・シェル

ラ式蹴球

東西OB對抗

ア式蹴球

ホッケー

クラブ對抗

中等學校

相撲

青年團

學生對抗

陸海軍人試合

柔道

青年團

一般選手

馬術

劍道

青年團

一般選手

弓道

一般競技

學校對抗

卓球

ヴァレー

男子

女子

バスケット

男子

女子

飛行機

野外偵察、機體整備

[illegible]

第三回明治神宮體育大會目次

(一) 明治神宮體育會の成立……一
第三回明治神宮體育大會……二
若槻首相の祝辭……一三
濱口內相の祝辭……一四
岡田文相の祝辭……一五
選手代表宣誓文……一六
第三回明治神宮大會收支一覽……一七
參加章……二〇
(二) 各競技部の準備計畫及經過……一
水上競技……一
柔道部の計畫と經過……一八
弓道演武報告……二一
馬術競技報告……二九
アフソシエーション、フツトボール……三一

ラクビー蹴球部計畫及經過……二五
バスケットボール競技……二七
射撃部……四二
ヴアレーボール部の組織……四六
劍道部組織計畫及經過……五二
卓球部……五八
相撲……六五
ホツケー部……七七
端艇競漕出漕申込……八五

(三) 第三回明治神宮體育大會競技の成績と概評……

水上競技記錄……一
柔道試合成績……二
飛行競技……四〇
射撃競技の狀況……四二
ヴアレーボール競技記錄……五二
バスケットボールの成績……五七
庭球競技記錄……七三
ラグビーフツトボール……一〇八
アソシエション蹴球……一一六
馬術競技實施大要……一二三
相撲の成績……一二九
ホツケー競技の記錄……一六〇
卓球競技記錄及概評……一九三
弓道演武經過及成績……二〇五
陸上競技……二〇九
神宮競漕を觀て……二三一
マスゲームについて……二六四
野球試合の經過及成績……二六六
劍道試合の感想……二九三

野球試合の經過及成績

芦田公平

第三回明治神宮大會野球試合は、六大學野球聯盟の各フレツシメンチームをA組とし、全國中國より選拔した、早稲田實業、靜岡中學、神港商業、和歌山中學、大連商業、鳥取一中、高松中學、前橋中學の八校をB組とする二種に分つて行つた、抽籤の結果A組の明大及帝大は不戰一勝者となり、十月三十日から三日間、戸塚早大野球場並に新設の神宮外苑球場に於て輸贏を爭ふ事になつた。

第一日（十月三十日）の組合せは、神宮外苑球場に於ては午前八時三十分から神港商業對靜岡中學(A)午前十一時四十五分から鳥取一中對大連商業(B)午後二時四十五分から慶應大學對立教大學フレツシメンチーム(C)の試合が行はれ、戸塚早大球場に於いては午前八時三十五分から早稲田實業對和歌山中學(D)午前十一時三十五分から高松中學對前橋中學(E)午後二時三十五分から早稲田大學對法政大學(F)の試合が行はれこれを第一回戰として翌十月三十一日には、神宮外苑球場に於ては午前十時からDの勝者和歌山中學對Eの勝者高松中學の試合が開始され午後二時二十五分から、Cの勝者慶大とFの勝者早大と端なくも顔が合ひ、一方早大グラウンドに於ては、午前十一時半からAの勝者神港商業對Bの勝者大連商業の試合が行はれ、午後二時半から明大對帝大の準決勝戰が行はれ、中等學校では和歌山中學と神港商業とが勝ち殘り、六大學フレツシメンチームは、早大を破つた慶應と帝大を敗退せしめた明大とが覇を爭ふ事となつた。斯くて最後の十一月一日は、午前十時五分から外苑球場に於て先づ和歌山中學對神港商業の決勝戰が行はれ午後二時から慶大對明大の決勝戰が行はれたが大學新人戰では慶大、中等學校では和歌山中學が何れも大接戰の後凱歌を擧げた。

中等學校之部

一勝者戰

神港商業四——二靜岡中學

神宮外苑に於ける中等學校選拔野球、神港商業對靜岡中學の試合は、十月三十日明治神宮體育會長井上準之助の始球式に次で午前八時三十分から氷室瀨木審判、神港先攻の下に行はれた。靜岡中學は今夏甲子園に於ける中等學校野球戰の優勝者であり、神港亦優勝候補として自他共に許す强チームで兩者の技倆は完く伯仲の間にあつたが、靜岡中學は主將福島捕手の不參加が影響したものか、上野投手の快腕も冴えず神港に對して十一の安打を許す不出來となり、二回二點五回七回各一點を得られ、靜中は八回裏の猛襲で二點を回復したが攻擊續かず、遂に四對二で神港に名をなさしめた。閉戰十時二十五分。

(神港)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(中)島	5	0	2	0	0	0	1	0
(遊)久保	4	1	0	0	1	0	1	0
(一)山下	4	0	1	1	0	0	0	0
(捕)小柴	5	0	2	0	0	0	0	0
(左)高瀨	4	2	2	0	1	1	1	0
(投)西垣	4	0	1	0	0	0	1	0
(三)重尾	4	1	2	0	0	0	0	1
(右)山崎	4	0	1	0	0	1	0	0
(二)濱田	4	0	1	0	1	0	1	0
計	38	4	12	1	3	2	5	0

(靜中)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(中)戸崎	3	1	2	0	1	0	1	0
(遊)築地	4	1	2	0	0	0	0	2
(捕)國友	4	0	0	0	0	0	0	2
(三)田崎	4	0	1	0	0	0	0	0
(投)上野	4	0	1	0	0	0	0	0
(右)松浦	3	0	0	0	1	0	3	0
(二)本田	4	0	0	0	0	0	2	2
(一)藤田	4	0	0	0	0	0	1	0
(左)石川	3	0	0	0	0	0	2	0
計	33	2	6	0	2	0	9	6

得神—	0	2	0	0	1	0	1	0	0—4
點靜—	0	0	0	0	0	0	0	2	0—2

二塁打——小柴2、山下、坂尾、島、築地、田崎、
併殺——靜岡1、
時間——一時間五十五分

大連商業一一——五鳥取中學

大連商業對鳥取一中の試合は引續き十一時五分から原主審の下に行はれた、鳥取大連兩者共よく打つたが。分けて大連の打撃は素晴らしく十一A對鳥取五のスコーアを殘して大連の勝となつた。

鳥取先攻一回に一點を入るれば、大連三回に肥塚安打で出た時梅本本壘打を放つて同點となし、鳥取四回目に一點を入れ、大連五回で三點を入るれば鳥取又七回に二點を入れて同點となし、觀客をヤンヤと云はせたが、大連櫻井に五本の安打出で攻撃益々猛烈となつて鳥取これを防ぎ切れず遂に六點の差で敗退した。午後一時二十五分閉戰。

(大連商業)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(左)牧	5	0	0	0	0	0	3	0
(三)馬場	4	3	1	0	1	0	0	2
(遊)梅本	5	4	3	0	0	0	0	2
(捕)櫻井	5	2	5	0	0	0	0	1
(投)圓城寺	4	0	1	0	0	0	0	0
(一)秋山	4	0	0	0	0	0	1	1
(右)大藤	4	0	0	0	0	0	2	0
(二)松島	3	0	0	0	1	0	1	0
(中)肥塚	4	2	1	0	0	1	1	0
計	38	11	11	0	2	1	8	6

(鳥取中學)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(二)北山	3	1	0	0	2	0	0	1
(右)叶	5	1	0	0	0	0	0	0
(捕)宮脇	4	0	2	0	1	0	0	0
(投)小島	5	1	1	0	0	0	0	2
(左)田中	5	0	0	0	0	0	3	0
(一)平井	5	1	1	0	0	0	0	0
(中)晉田	4	1	2	1	0	0	0	0
(三)京谷	3	0	1	1	0	0	1	3
(遊)酒本	4	0	1	1	0	0	0	0
計	39	5	8	3	3	0	5	6

得點 鳥	2	0	0	1	0	0	2	0	0	—5
得點 大	0	0	2	0	3	0	3	3	A	—11

本壘打——梅本三壘打——櫻井2、平井二壘打——晉田、併殺——大連1

和歌山中學三——一早稲田實業

戸塚早大球場に於ける劈頭戰、和歌山中學對早稲田實業の試合は、早大安部教授の始球式に次で、和中の先攻で始まつた。兩者は、今夏甲子園の試合に顔が合はなかつた强チーム同士であり、からりと晴れ渡つた神宮日和に、此の一戰を見んものと朝來押すな押すなの人出で急ちスタンドを埋むるの盛況を來した。

攻撃守備共大した見劣りのしない兩軍である、和中小川の奪つた三振、早實高橋の奪つた三振共に九、安打は和中が六で早實が五、過失も二と一の大差ない戰であつたが、和中の七回滿壘の時高橋が小川に四球を與へて二點を押出したのが勝敗の別れ目となり、早實としては諦められぬ試合であつた。

(早稲田實業)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(遊)岩瀬	4	1	1	0	1	0	2	1
(右)牧口	3	0	0	1	0	0	1	1
(中)齋未	4	0	1	0	0	1	1	0
(三)小林	3	0	0	0	1	1	0	0
(投)高橋	4	0	0	0	0	0	2	0
(捕)加瀬	3	0	1	0	1	1	0	1
(左)須藤	4	0	1	0	0	0	0	0
(一)小川	4	0	1	0	0	0	2	0
(二)深田	3	0	0	0	1	0	2	0
計	32	1	5	1	4	3	10	2

(和歌山中學)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(遊)松尾	4	0	0	0	1	0	0	1
(二)土井	5	2	2	0	0	0	1	0
(中)山本	4	0	1	1	0	0	2	0
(投)小川	2	0	1	0	2	1	0	0
(捕)高橋	2	0	0	0	2	0	0	1
(一)丹下	4	0	0	0	0	0	1	0
(右)島本	3	0	0	0	1	0	3	0
(三)後藤	3	0	0	0	1	0	2	0
(左)梶本	4	1	2	0	0	0	0	0
計	31	3	6	1	7	1	9	2

得點	和	0	0	1	0	0	0	2	0	0—3
	早	0	0	0	0	0	1	0	0	0—1

高松中學五——〇前橋中學

前橋中學對高松中學の試合は十一時三十五分から高松の先攻、藤田主審の下に開始された。

前橋中學は今夏甲子園に於ける第十二回全國中等學校野球試合に、優勝者靜岡中學と十九回の大接戰を演じた强豪であつて、勝は前橋にあるものと豫想されてゐた。ところが試合は俄然投手戰となり、七回迄双力投手のカーブを打ち惱んで兩軍共に得點の機會なく、八回に入つて高松中學に始めてチャンス來り、滿壘に藤本の安打、四死球、犧打と巧みに攻めたゝめ流石の前橋も防止出來ず、一擧五點を奪はれ、五對零で高松の快勝するところとなつた。

(前橋中學)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(三)江　原	4	0	0	0	1	0	2	1
(捕)片　桐	3	0	1	0	1	1	1	0
(中)唐　澤	4	0	2	0	0	0	0	0
(右)小　黒	3	0	0	0	1	0	3	0
(投)丸　橋	2	0	0	0	2	0	0	0
(一)筒　井	3	0	0	1	0	0	0	1
(左)植　田	2	0	0	0	2	0	2	0
(遊)菊　川	4	0	0	0	0	0	1	0
(二)關　口	4	0	0	0	0	0	1	0
計	29	0	3	1	7	1	11	2

(高松中學)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(左)藤　本	4	1	1	0	0	0	1	0
(中)千　田	3	1	0	0	1	0	1	0
(投)那　須	3	0	1	1	1	0	0	0
(一)松　本	4	0	0	0	0	0	1	0
(捕)佐　野	3	0	1	0	0	0	0	0
(右)高　橋	3	0	0	1	0	0	0	0
(三)岡　内	3	1	0	0	1	0	2	0
(二)梶　原	4	1	1	0	0	0	1	0
(遊)木　村	4	1	2	0	0	0	0	2
計	31	5	6	2	3	0	6	2

準決勝戰

和歌山中學三A——一高松中學

和歌山中學對高松中學の試合は十月三十一日午前十時から長濱主審の下に神宮球場で高松先攻によつて開始された。和歌山中學は第一回から高松中を壓迫し、投手那須の球をよく打つて二回一點、五回一點、七回一點を入れ、八回に至つて和中は更に滿壘の好機が來たので、高松は那須を高關に變へて防ぎ漸く點を與へずにすんだが、高松は六回に僅に一點を返したのみで遂に三對一で和中に勝を讓つた。十二時三十分閉戰。

(和歌山中學)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(遊)松　尾	5	1	2	0	0	1	1	0
(二)土　井	5	1	3	0	0	0	0	0
(中)山　本	3	0	1	1	1	0	0	1
(投)小　川	4	0	1	1	0	0	3	0
(捕)高　橋	2	0	1	0	2	1	0	0
(一)丹　下	3	0	0	0	1	0	0	1
(右)島　本	3	0	0	0	0	0	1	0
(三)藤　左	3	0	0	1	0	0	2	1
(左)梶　本	4	1	3	0	0	0	0	0
計	32	3	1I	3	4	2	7	3

(高松中學)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(左)藤　本	4	0	1	0	0	0	3	0
(三)岡　内	3	0	0	0	1	0	1	0
(捕)佐　藤	3	1	0	0	1	2	1	0
(遊)那　須	3	0	0	0	1	0	0	0
(一)松　本	4	0	3	0	0	1	0	0
(中)千　田	2	0	0	2	0	0	2	0
(二)梶　原	4	0	0	0	0	0	0	2
(右)高　橋	2	0	0	0	0	0	0	0
(遊)木　村	3	0	0	0	0	0	2	0
(右)岡　見	0	0	0	0	0	0	0	0
(投)高　關	1	0	0	0	0	0	0	0
計	29	1	4	2	3	3	9	2

得點	高	0	0	0	0	1	0	0	0—1
	和	0	1	0	0	1	0	1	0A—3

神港商業一三——六大連商業

神港商業對大連商業の、準決勝戰は十月三十一日午前十一時二十分から氷室主審の下に神港の先攻で開始。神港も大連もよく敵投手の球を猛打し、安打各々十を算へる打擊戰を演じたが神港は第一回劈頭安打と敵失で一擧五點を奪ひ、二回と四回とに各二點を入れ、六回に至つて二の四球と秋山の安打で一點、四球と敵失で滿壘となつた時二壘打があつて一擧三點計四點を加へて十三點を得たのに反し、大連は四回に二點、五回に一點、六回に三點を入れたが追擊及ばず、遂に十三對六の大スコアを殘して終る。一時四十分閉戰。

(大連商業)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(左)牧	3	1	0	0	2	0	1	1
(三)馬場	4	1	0	0	1	0	0	1
(遊)梅本	4	2	1	0	1	2	0	1
(捕)櫻井	3	0	1	0	2	1	2	2
(投)圓城寺	5	0	0	0	0	0	0	0
(一)秋山	5	0	3	0	0	0	0	0
(右)大藤	4	1	2	0	1	1	1	0
(二)松島	5	1	1	0	0	0	1	2
(中)肥塚	5	0	1	0	0	0	0	0
計	38	6	9	0	7	4	5	7

(神港商業)	打數	得點	安打	犧打	四死	盜塁	三振	失策
(中)島	5	1	1	0	1	0	0	0
(遊)久保	5	3	1	0	1	1	0	2
(一投)山下	3	3	1	0	3	0	0	0
(捕)小柴	5	2	0	0	0	0	0	0
(左)高瀨	5	1	2	0	0	0	0	0
(二投)製垣	5	2	3	0	0	0	0	0
(三)坂尾	5	1	0	0	0	0	1	1
(右)山崎	4	0	1	1	0	0	0	0
(一二)濱田	4	0	1	0	1	1	0	0
計	41	13	10	1	6	2	1	3

得點	神	5	2	0	2	0	4	0	0—13
	大	0	0	0	2	1	3	0	0—1

斯くて、全國中等學校選拔試合は、和歌山中學と神港商業とが殘り、十一月一日清澄なる秋光の下、神宮外苑球場で最後の榮冠を爭ふ事となつた。

和歌山中學優勝

午前十一時五分和歌山中學對神港商業の試合から始まる（審判天知、安井、中川）

神港商業は劈頭强敵靜岡中學を一蹴し、續いて大連商業を破つた强チーム、和中は關東の勇早實と四國の王高松中學を一氣に屠つた强豪で技倆完く伯中の間にあり、練習の時から兩軍に美技續出して觀衆をヤンヤと云はせ、和中の小川、神港の山下等が大物を放つて氣持ちのよい當りを見せ、勝敗は何れのものか想像を許さぬ位であつた。

神港先攻、一回二死後山下二塁失に生き、遊失に二塁を得、投手暴投で三塁に及んだが、小柴三振に立往生。和中松尾劈頭三遊間の安打に出で土井に送られたが、後援無く。

二回、神港は高瀨三塁右の內野安打に走者を出し、和中も高橋の四球に一塁を得たが、共に得點にならず、三回も兩軍無爲、四回、神港一死後小柴左翼安打高瀨四球西垣の遊塁で高瀨封殺、西垣盜塁に成功したが、坂尾の三振で入らず和中代つて攻め、小川一塁左を拔く安打に出で、高橋の死後、丹下中堅安打後藤右翼安打に小川生還、丹下は投手暴投にあせつて本塁を突いたが刺された。

五回、神港山崎右翼線側に二塁打し濱田の右翼安打を右翼手ハンブルする間に一擧生還島の二塁と久保の犧打で濱田も還り一點を勝ち越して大いに緊張す。其回和中は、一死後松尾の左翼安打、土井の一二間安打が出たが、山本の二塁で土井併殺。

六回、神港小柴二塁越安打、高瀬のバントと西垣の三匐で三塁に進んだが、坂尾二塁匐で得點無し。和中小川右翼越三塁打し高橋左翼安打で綺麗に一點を加へ同點となり、猶丹下三振の後後藤四球島本右飛の後滿塁の好機があつたが松尾の二塁ゴロで惜しくも機會を逸す。七回兩軍共一走者を出したが後援なく、八九回共に事なく延長戰に入る。

十回、神港島田四球で久保に送られ山下四球、小柴投匐で島を三塁に封殺し、山下小柴のダブルスチール成功、高瀬の四球で二死滿塁大いに優勢に見えたが西垣二塁に止む。代つて和中小川二塁右を抜き、型の如く高橋のバントに送られ、丹下左翼に痛打して小川生還決定の一點を擧げ三A對二の接戰で和歌山中學の優勝に歸した。十二時廿分閉戰。

これを要するに、和中の勝は小川投手の好投と共に、同投手が放つた三塁打と二本の安打とが悉くチャンスを作り、後續打者よく此のチャンスを生じ、完全に神港の堅陣を破つたもので、稀に見る好試合であつた。

(神　港)	打數	得點	安打	犧打	四球	三振	死塁	盜塁	過失
(中)島　保	4	0	0	0	1	0	0	0	0
(遊)久　保	3	0	0	2	0	2	0	0	0
(一)山　下	3	0	0	0	2	0	1	0	0
(捕)小　柴	4	0	2	1	0	0	1	0	0
(左)高　瀬	2	0	1	0	2	1	0	0	0
(投)西　垣	5	0	0	0	0	0	1	1	1
(三)坂　尾	4	0	1	1	0	0	0	0	0
(右)山　崎	4	1	2	0	0	0	0	1	0
(二)濱　田	4	1	1	1	0	0	0	1	1
計	33	2	7	5	5	3	3	3	3

(和　中)	打數	得點	安打	三振	四球	犧打	死塁	盜塁	過失
(遊)松　尾	4	0	2	0	0	1	0	1	1
(二)土　井	4	0	1	0	0	1	0	1	1
(中)山　本	5	0	0	0	0	0	1	0	0
(投)小　川	5	3	3	0	0	0	0	0	0
(捕)高　橋	3	0	1	0	1	1	0	0	0
(一)丹　下	5	0	2	1	0	0	0	1	1
(二)後　藤	3	0	1	0	1	0	0	0	0
(右)島　本	4	0	0	1	0	0	0	0	0
(左)梶　本	2	0	0	0	2	0	0	0	0
計	35	3	10	2	4	3	1	3	3

三塁打――小川、二塁打――山崎、暴投――小川、2西垣1、併殺――和1神1、時間二時間十五分

試合と感想

倶樂部戰を止めて新に六大學フレッシュメンの爭覇戰が加はり。中等學校の方は靜岡、和歌山、高松、鳥取、前橋の五中學、早稲田、大連、神港の三商業が選ばれた。何れも非常に技量が接近してゐるので全く豫想つかない位であつたが、結局八校が汗みどろの試合の結果和中の勝となつた。

六大學新人戰は眞の意味の新人ではなく、可成り多くの舊人が加はつてゐたが熱のない倶樂部戰よりは若武者の意氣潑剌たる處に試合を生かしてゐた。

此の試合では慶立、慶早、慶明の三試合が非常な激戰となつて外苑を賑はし、殊に早慶戰は人氣を呼んだが結局、優勝は順當に慶應のものとなつた。

中等學校

一勝戰

◇和中と早實　和歌山中學と早稲田實業とが第一回に組合されたのは隨分手痛かつた、劈頭に優勝戰を行はるゝやうなものだとの聲すらあつた位で面白くはあつたが餘りに氣の毒であつた。

和中の小川と早實の高橋の一騎打は確かにフアンの血を沸かした、攻擊力ある早實が東京と云ふ地の利を占めてゐるから高橋が小川と互角の投球をすれば早實に勝味があつたのである。而し小川はその一騎打において老巧一日の長ある高橋を押さへねばならぬと決心したものか滿身の勇をその第一日にこめて色氣ない試合を行つた、小川は速力こそ落ちてゐたが立派な投球を見せた、それに反し高橋は夏の大會よりは數等の見劣りがした。

そのブレーキの小さなカーブは幾分大きくなつてゐたが、コントロールの妙味を失つてゐた、如何に大きなブレーキがあつても鈍さがなくコントロールを缺くならば打者を脅威するに足らぬのである。

小川は早實に對し、五安打四の四球丸の三振であつたに對し、高橋は六安打四の四球三の死球を和中に與へ　その肩の不整を曝露した。

小川が五回迄に一安打、六の三振を得てゐる間に高橋は早くも第三回に危機に立ちテキサスとこの死球に滿壘の機會を作らしめた、そこを巧く切拔けたが、第三回には和中土井の右翼安打を牧口が、暴進して三壘を與へ、山本に吊り球を送つて却つて右翼へ犧飛を打たれ一點を和中に先取された。

早實の打擊は六回になつて冴へ、岩瀨四球牧口安打齋木の二一壘間に打つた球が土井の逆をついて安打となり、バツクアツプした島本の本壘送球も正鵠を失して岩瀨生還同點となつた。

高橋は此頃から極度に疲勞してゐた爲めラツキーセーブンは和中を見舞つた。七回の和中一死後梶本右翼へ安打し牧口後逸して三壘を與へた、松尾はスリーナッシングから打つて投飛に退いたが土井をツウストライクス・ナツシングに攻めながら、第三球目に直球を送つて二壘に好打され梶本生還高橋はこゝで平靜を失つてしまひ次の山本に直球を安打され、小川高橋共に四球で土井を押出した。

七回の裏早實の加藤左翼に安打し須藤も中堅に安打した。續く小川のバントが內野安打となつて無死滿壘となつた。

深田はカーブ攻めで三振、次は先頭打者の岩瀨である當つてゐる岩瀨は小川のカウントを惡くさせて直球を狙ふ心算であつたらしい。が小川はカーブのみを以てこの危機を切り拔けやうとした、ノーストライクで第四球が小川の手を離れた時加瀨は本壘に驀進した。そのストライクを岩瀨が見逃し加瀨は高橋(和)に刺されて二死となる。岩瀨は氣の拔けたやうになり次の直球を二壘に打つて早實は三安打を美事に棒に振つた、第八回に早實は二走者を出したが物にならず三對一で敗れた。

加瀨と岩瀨との間に連絡がなく、加瀨へはスクヰズのサインが發せられ岩瀨にはそのサインが傳達されぬ內に、小川の投球となつて加瀨は犬死した。そのサインの行違ひ岩瀨の見逃がしで更に興味あるべき試合は爰に運命づけられた。

然し岩瀨の正攻法がよかつたやうである、滿壘の場合のスクヰズは封殺の虞れがある、若し强ひてスクヰズに出るならラストの深田にさせる處である。

好投手に對して七回二點の差であるから積極的に至るならばこゝでリードする策戰、消極的に出でも同點にする豫定でなければならぬ。深田にバントさせて一點を得、岩瀨以下によつて一點若しくは二點を得る。かく行くならば戰法は消極ながら異論をはさまねわけにはいかぬ。

深田は打つて三振した以上殘りの二人によつて一安打二生還の他はない。高橋の不出來の戰法の間違ひは遂に惜しく逸した。

◇高松中學と前橋　前中丸橋と高松那須は同型の投手である。

高松は七安打、前橋は三安打であるが高松もクリーン・ヒットは矢張り三安打である。

丸橋は六回まで高松を苦るしめてゐたが第八回に岡田を歩せた、そして梶原、木村にバントされた際三壘江原が躊躇して內野安打にした。それが破綻の基であつた。

續く高松の藤本は左前安打千田は四球、那須は中堅犧飛を上げ遂に三點を與へたのみならず、松本の三壘ゴロを江原が失して更に二點を加へさせた。

丸橋には氣の毒な得點で、彼には那須に優るとも劣らぬ投球をしながら、味方の不振に禍されて試合を失つた。

前橋は打擊不振で五回六回にチャンスを作りながらそれを物にする事が出來なかつた、打てない爲め敗れたのであるかく投手一人を苦しめながら最後に潰敗した事は考ふべき事である。

◇神港と靜中　神港は初回より第四回を除く他は各回に安打を放ちて好機を迎へ、すでに第五回までに三點を擧げて好調を示してゐたに反し、靜中は第七回までに僅か三安打を散發して只一回二壘に走者を出した他は好機となるべき時もなく、第八回美事なアンドランして、試合を生かしたが及ばず、遂に大會第一日に神港のために破られ試合前の豫想と期待とを裏切つてしまつた。

靜中の敗因は主將福島捕手が病氣で出られない爲めである。靜中は徹頭徹尾打たんとし過ぎて却つて試合を苦しくした、第一回に戸崎が四球に出た後三者凡退して戸崎を一壘に釘付けるし、第二回は再び上野の二壘前內野安打に出たのを又立往生せしめた。

一方神港は第二回に四球に出るや西垣にバンドせしめ、次に坂尾の遊擊を拔く二壘打、二壘失濱田、島の各安打によつて二點を先取して試合を樂にした、靜岡はこの二點でます〳〵やつきとなり、各打者とも西垣が投げる緩曲球と外角に低く流れ込

む直球を見逃し、高い浮き氣味の球に釣り込まれて、打撃不振に陷つた神港は五回久保四球山下犧打小柴の中堅安打に一點をまし、靜中は愈々不利になつた。

そして第八回に及んで靜中は一死後戸崎の二壘右安打と築地、田崎の左翼越二壘打に二點をかへしたが時既に遲く、遂にこの一戰に不覺をとつてしまつたのである。

靜中は第一、二回のチャンスをあまりに打撃を過信して無意に終つた事が大なる敗因であつた。

神港投手西垣は第一回第二回の危機を切り拔けてから益々緩球を用ひ巧みに敵を翻弄してゐた。

◇大連と鳥一中　大連と鳥取一中は最初鳥中の攻撃急にして二點を先取し、第二回に大連の櫻井の二壘打があり、三回に梅木の本壘打があつて二點を取り戻すや、鳥中は第四回に音田安打を放つて敵失に一點を增し、同回大連は、馬場の四球に續いて梅木が安打し、二者を置いて櫻井に當日三本目の安打を左中間に三壘打して二者還り、圓城寺の三甫失に櫻井も還つてこゝに三點を入れ、更に第七回鳥中小島敵失に生きて平井の左翼三壘打に還り、平井は音田の犧打に一點を增して同點に成つたかと思ふまもなく、その裏に大連は一死後、馬場遊失、梅木、櫻井、圓城寺等共に安打を連發して三點を擧げ、第八回には松島の死球を手始めに、櫻井の三壘打があつて三點を擧げて美事に大連は鳥中を擊退した、而し双方ともよく打つて中にも大連の當日の打撃は中等學校選手の打撃と見へない位で、櫻井が五度立つて五安打し、うち二つの三壘打が、あつたのみならず、最初の一安打を除く他はことゞくタイムリーと成つて櫻井の安打によつて入つた點だけでも五點を算した。

準決勝戰

◇大連と神港　相當の期待された此試合は最初大連の圓城寺が打たれそれにバックがなつてゐなかつたので一回に四安打、四球一、失策三で神港が五點を奪つた、大連の敗因は此折の連失によるもので分けて大きかつたのは、櫻井の三壘高投であつた先攻の神港島左翼の凡飛が安打となり、久保の遊撃ゴロで封殺を圖つたが二壘手失策し島はそのまゝ三壘を得、久保は二壘を盜む圓城寺山下を嫌つて四球に歩かせ、小柴は遊飛高瀨の第一球に島本壘に突進し、櫻井窮鳥を前にしながら愼重を缺き身體の崩れたまゝ三壘に投じて猛烈なる高投となり、しかも左野手後逸して一擧三點を與へた。高瀨の遊撃飛球は日光の爲め安打となり、西垣は中堅に安打し、阪尾の投甫に高瀨三壘に封殺されたが、山崎の凡飛が左翼前に安打となり滿壘の後濱田の二飛を野手失敗して合計五點を得た。

二回には四球後山下の右翼塀越の大ホームランがあり圓城寺は遂に落城を餘儀なくされた。圓城寺は夏程には投げられなかつたが彼の投球を以て當日の敗因とする事は出來ない。しかし夏のやうな練習がないためかスロウボールの巧みさを失つてゐた。

櫻井は攻守共に一流の選手であるが、常に愼重を缺いては失敗してゐた。

第五回にも一壘に走者を置きバックネット近くでフライ、ボールを拜んでゐる間に二壘を取られた。神港の投手西垣は夏以來かなりの進歩の跡を示してゐた、二回目から山下が投手となつたので完投はしなかつたが、山下が六點をとられた七回から西垣が再び投球して得點を與へなかつた。大連の攻撃力は素晴らしいものであつた。

山下、西垣に對して安打九本、六のアーンドランを擧げてゐる若しも此の打力を持つて守備が完璧であつたら、餘程の强味を現出したであらう。

◇和中と高中　高中善戰したが奮鬪甲斐なく倒れて和中が決勝戰に出る資格を得た。此の日の戰を見るに高中の和中に對する經過は、和中をして決して樂々と試合せしめたものでなく、最後まで和中を苦戰せしめた。

二回高中那須が一壘の落球に生き松本三遊間に安打し千田の犧打に送られた時、梶原とのスクヰズが成功して一點を先取してゐたなら或ひは高中がそのまゝ和中を屠つたかも知れない、それに那須は審重を缺いて梶原が立つや第一球をバントするものと思つたのかすぐ飛び出し、小川の球を梶原が見逃し、那須を三本間に挾殺せしめ、取り得る得點を失つたのは大きな痛手である。

高中は第一回に守備亂れ、更に第二回に和中梶本の飛球を相讓合つて安打とし松尾の內野安打とその失があつた後那須が暴投なして一點を與へた、又第五回に和中、土井の安打と、高橋の中堅適時安打に更に一點を增され、高中はこの回に二死後二つの四球と、松本の安打に美事一點をかへしたが第八回にまた和中は土井二塁失、山本四球で小川に送らるゝに際し高橋は三塁でしとめたが後續の打擊を封じやうとするのあまり、曲球亂用の結果、球勢力を失ひ二つの四球を與へて押出しの一點を和中に與へた、そうした結果が自然にかたくなつて實力以下の試合をしてしまつた。然し此間活氣あるプレーと小川を打科した事は特筆に値する。

一方和中小川は、夏の如き强勢と妻味を有してゐなかつたが長軀を利して左腕からくり出す直球と低く入る曲球は實に立派な投手振りで殊に此の試合の最後に近づくに從ひ、その妻味を見せてゐた。

決勝戰

和中と神港　和中と神港の決勝戰は第三日神宮球場に於て行はれた、兩者共歷史的背景のある爲めかチームとして均整の取れてゐる爲めか、優勝戰として兩々相對し實に立派であつたが神港西垣は連日の連投に疲れて持久力なく試合最初に和中に打たれ遂にコントロールを失ふて每回四球に走者を出させた。

和中は第四回小川丹下、後藤の安打に一點を奪ひ、神港第五回に山崎、濱田の安打と久保のスクヰズに二點を得て一點をリードしたが、和中第六回に小川の三塁打と高橋の中前安打で同點とし、補回戰に入つて和中は小川の安打に高橋の犧打があり、丹下の理想的安打は此の試合の勝敗を決した、和中は始め固くなつてゐたらしかつたが、第四回に一點を先取するやチームは全く落ち着きを恢復した。

補回戰に入つて神港島歩いて出で、久保に送られた時、和中、小川が故意の四球を與へ、小柴の投手ゴロで島を封殺し山下小柴が重盜するや再び高潮に故意の四球を與へて封殺の機を多くし打順の下降を飽くまで計つて、西垣を二飛に打ちとつた。

處は實に合理的で流石に中學球界の麒麟兒と云はれる。

神港も小川の球の打てぬ事を知つて走者が出る每に盜塁を敢行して打擊を補ひ、和中をして終始苦戰せしめた處は老巧と云ふべきである。

只神港が第十回の好機に際し島が小柴の投手ゴロ三塁に封殺された事である。島は勿論スタートをよくしてゐたがあまりに塁の近くでスライドした爲めにオーバランし投手の送球を三塁手が落球してゐる間に塁にかへるを得ず憤死を遂げてしまつ

た。また西垣が和中の山本の强打を恐れて次打者小川に山本程の注意を拂つてゐなかつた事は西垣の落度である。
然しながら中學チームとしてかくも立派なヘッドワークを見せてくれた事はファンにとつては此上ない事である。

昭和四年五月三十日印刷
昭和四年六月　日發行

東京市四谷霞ヶ丘日本青年館内
明治神宮体育會
編輯兼發行人　宮木昌常

東京市神田區錦町三ノ五
合名會社　太田印刷所
印刷所

同
印刷人　太田米吉